

平成二十七年四月投句

【門司 下関(唐戸市場 三宜楼など)】

いつの間に鯨が亀に春の雲

フリージアその名を知りし初恋や

三宜楼出れば現の春の宵

勝利

水音の庭に聞こえて日永かな

光子

芳一の微かに仰ぐ春の闇

早世の彼に手向けしフリージア

夕風の岸边水母の浮いてきし

褪せてゆく日を海峡に春惜む

屈みみる七盛塚や春深し

佳与子

春帆楼コーヒー談議して日永

真理子

身をポンとはじきて女烏賊を売る

ベランダを飛び出す風の鯉のぼり

花びらがかけ上りくる下り坂

烏賊の足動くトロ箱うち重ね

がらす戸にゆがむ陽炎門司の町

節子

潮流の向き変り街かげろへる

由紀子

山の墓踊子草に囲まれて

八重桜満ちて敗戦烈士の碑